



Windows Vistaのサイドバーにある フィードヘッドラインツールは どうやって使うのですか？ (中田宏司さん)

Windows Vistaのサイドバーには、時計やカレンダーなど、さまざまなガジェットを配置することができます。今回の質問にある「フィードヘッドラインツール」も、このようなサイドバーのガジェットの一つです。インターネット上のWebサイトやブログのRSSフィードを登録することで、最新記事のヘッドライン情報や更新された記事をサイドバーに表示することができます。

しかしながら、このガジェットは使い方が分かりにくいという欠点があります。標準では何の情報も表示されない上、クリックしても設定画面などは表示されず、フィードを登録することもできません。どのように使えばよいのかが分からずに、サイドバーから削除してしまった人も少なくないことでしょう。

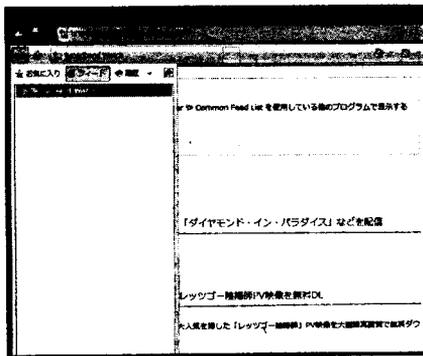
実際にどのように使えばよいのかと言うと、Internet Explorer 7（以下IE7）と関係させて利用します。フィードヘッドラインツールは、IE7に登録しているフィードを表示するためのガジェットですので、まずIE7でフィードを登録

する必要があるのです。

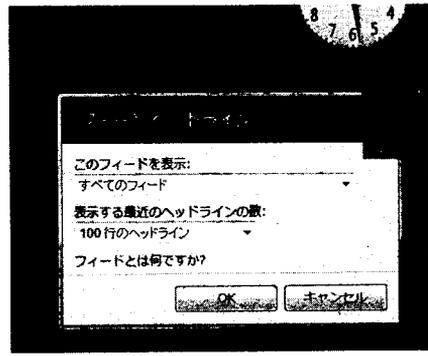
IE7でRSSを配信しているサイトを表示し、ツールバーのボタンなどを利用してフィードを登録します。これでフィードヘッドラインツールからもフィードを読み込むことができるようになり、記事の見出しなどが表示されるようになります。

なお、IE7でフィードを登録すると、フィードヘッドラインツールでも表示するフィードの設定ができるようになります。標準ではすべてのフィードを表示する設定となっていますが、設定を変更することで特定のサイトのフィードのみを表示することもできます。

お気に入りのニュースサイトやブログの最新情報を常にチェックしたいというときに利用すると便利でしょう。
(清水理史)



フィードヘッドラインツールを利用するには、まずIE7でフィードを登録する必要があります。お気に入りのサイトのフィードを登録しておこう



フィードを登録すれば、フィードヘッドラインツールで情報を表示できる。特定のサイトのフィードのみを表示することも可能だ



Windows Vistaのハイブリッドスリープは 今までのスリープからどう変わったのですか？ (中本洋輔さん)

ご存じのようにWindows XPでは、PCを一時的に休止させておくための方法として、「スタンバイ」と「休止状態」という二つの方法がありました。

スタンバイは起動中のOSやアプリケーションの状態をメモリへ待避させることで、PCを省電力モードへ移行させる方法でした。この方式は、アクセス速度が速いメモリを利用することによって、素早く省電力モードへと移行し、復帰も即座にできるのが特徴です。しかしながら、その一方で、状態の保存には電源の供給が不可欠で、ノートPCのバッテリー切れなどによって電力が供給されなくなるとデータが失われ、復帰できなくなるという欠点がありました。

一方、休止状態はOSやアプリケーションの状態をHDDに保存してから電源をOFFにします。休止状態への移行や復帰には時間がかかりますが、HDDに書き込んだデータは電源が切れても保持されますので、安全性が高いというメリットがありました。

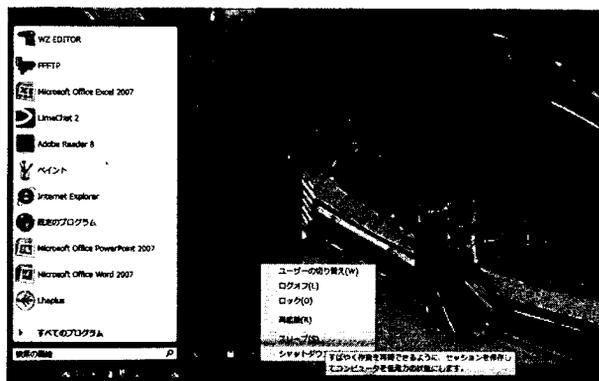
Windows Vistaの「ハイブリッドスリープ」

という機能は、このスタンバイと休止状態の両方を合わせたような機能と考えると分かりやすいでしょう。

スリープへと移行させる際に、メモリとHDDの両方にデータを保存することで、高速な省電力モードへの移行と通常モードへの復帰を実現しながら、HDDへの保存によってデータの安全性も同時に確保しています。これが従来のスタンバイとの最大の違いです。

ただし、このハイブリッドスリープは標準ではデスクトップPCでしか有効になりません。ノートPCの場合、バッテリーが搭載されているため、普段はスタンバイと同様にメモリへデータを待避させる通常のスリープを利用し、スリープの時間が長くなるなど、バッテリーの容量が少なくなった時点でHDDにデータを保存して休止状態に移行します。

デスクトップPCでは、このようなバッテリーのための対策は必要ないので、ハイブリッドスリープによって復帰速度と安全性を両立させています。
(清水理史)

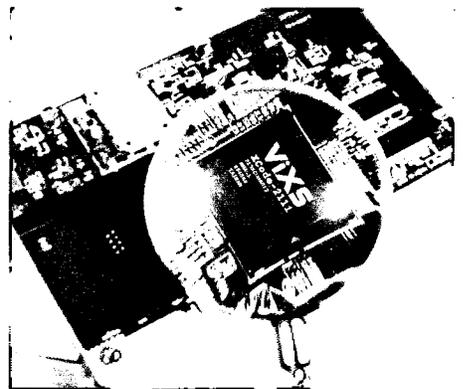


Windows Vistaでは電源スイッチを押すとデフォルトでハイブリッドスリープに移行する設定となっている

検証！ 使って試してみました

初の自作PC向け地デジチューナーということもあり、PCへの負荷や運用面などで気になる点は非常に多いはずだ。ここでは実際にどれくらいのマシンパワーが必要なのかに加え、現状の製品でできること、できないことを分析してみよう。

TEXT: 保坂陽一、目黒廣道



視聴・録画モードによるCPU負荷の違いは？

◇どれくらいのパワーが必要なのか？

地デジクラスの高解像度ビデオを再生するにはそれなりのマシンパワーが必要であり、ここまでの各製品紹介でも分かるとおり、推奨環境はなかなかのハイスベックとなっている。現行のCore 2 Duoでも、E4000番台などエントリークラスはすでに推奨環境ギリギリなので、従来のアナログキャプチャカードのように、「サブマシンでお手軽テレビ録画」といかないのは先に理解しておくべきである。ただ、去年買ったばかりのPCで動かない、というのではさすがにつらい。ここではそんな地デジ環境におけるマシンスペック事情をチェックしてみた。

まず下のグラフにまとめたのは、CPUにCore 2 Duo E8200、メモリを2GB、ビデオカードにNVIDIA GeForce 8500 GTを使用したPC（詳細はp.107）での、地デジ番組視聴時、視聴しながらの録画時、タイムシフト再生時の平均CPU負荷だ。現行の標準的なPCスペックであり、もちろんどの製品も通常の動作に問題はない。加えて、録画時、タイムシフト再生時でも負荷は20～30%前後に収まっており（デ

ュアルコアCPUなので、2コアの平均値だが）、いわゆる「ながら視聴」でも、動作が重いと感じることはないはずである。なお、主に負荷がかかるのは視聴（再生）時においてであり、MPEG2-TSフォーマットの地デジ録画においてはそれほどCPUパワーを使用していない。

CPU負荷率は各製品でバラつきがあるが、これはソフトウェアの作り込みも大きく関与してくるので、今後のアップデートでも変化していくものと思われる。エスケイネットのMonsterTV HDUSは全体的に負荷が高いが、この製品は暗号化をCPUで行なっていることが大き

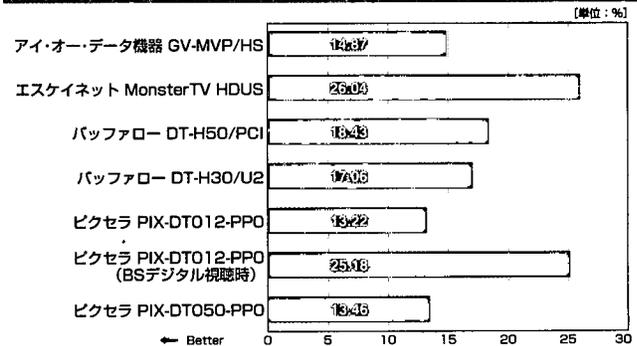
く影響していると思われる。また、ピクセラのPIX-DT012-PP0を見ると、地デジよりも解像度の高いBSデジタル視聴時は、やはり負荷が跳ね上がっている。

◇CPUやビデオカードでの違い

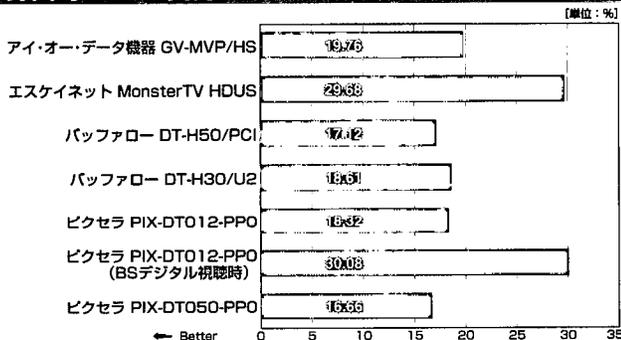
続いて、バッファローのDT-H50/PCIを用いて、クアッドコア、デュアルコア、シングルコアの新旧3種類のCPUで負荷を見てみた。結果は一目瞭然だが、マルチコアCPUは効果絶大！ Core 2 Quad Q9300では、動作クロックで勝るCore 2 Duo E8200の半分以下という軽さだ。もちろん、実際に操作をしていても

CPU負荷だけを見れば、どれも意外なほど低いのが分かる。デュアルコアCPUを搭載した現行レベルのマシンならば、どの製品も問題なく使用できるだろう。なお、GV-MVP/HSとMonsterTV HDUSはタイムシフト再生をサポートしていない

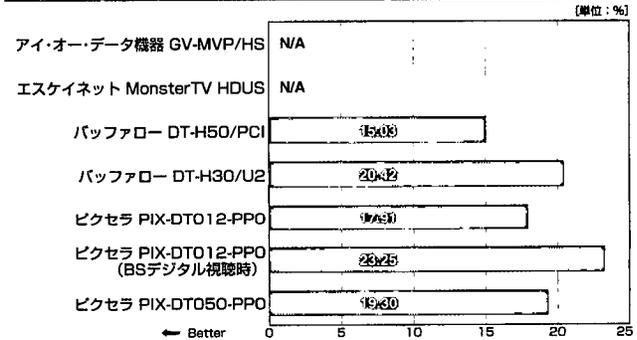
視聴時のCPU負荷



録画時のCPU負荷



タイムシフト再生時のCPU負荷



明らかに体感できる。一般的にテレビキャプチャソフトは、視聴ソフトや録画管理ツール、番組表ツール、常駐予約タイマーなど複数のプロセスが動作する集合体であるため、コア数は多いほど楽になると言える。クアッドコアにしたのはよいが、活かせるソフトがなかったというような人は、ぜひ地デジにチャレンジしてほしい。今は要求スペックが高いと感じるかもしれないが、将来的にCPUのコア数が増えることで、マシン負荷は急速に下がっていくだろう。

逆にシングルコアとして用意した Pentium 4 530 は、グラフでこそ平均40%以下だが、瞬間的に見ると60%を超えるシーンもあり、なかなか厳しい。ただ、低解像度のSP/LPモードならメーカーによる動作環境も満たしており、標準のDPモードでも視聴だけに限って言えばまず問題はない。そういった面を理解しておけば、3、4年前のPCでも地デジを楽しめるだろう。

最後に、ビデオカードの動画再生支援機能による差も試してみたが、GeForce 8500 GT と Radeon HD 3650 の2枚で明らかな違いが確認できた。GPU 自体の動画再生支援機能の優劣に関してはここではあえて触れないが、ビデオカードの性能による地デジ環境の差は間違いなく生まれるだろう。これは、地デジチューナー搭載で先行するメーカー製PCに対して、ビデオカードの選択が自由な自作PCの大きなアドバンテージになるはず。いずれにせよ、自作ユーザーにとって地デジはマシンパワーを存分に活かせる楽しいアイテムであることには変わりはないというわけだ。

チップセット内蔵グラフィックスでは？

地デジの高解像度を活かせる環境や、HD CPなどへの対応を考えても、やはり適したビデオカードが欲しいところだが、チップセットの内蔵グラフィックス機能でも、Intel 945GやG965以降の世代であれば、HDCPに加えてドライバもCOPPIに対応している。ただし、HD出力はDVIかHDMI出力を備えたマザーボードである必要がある。

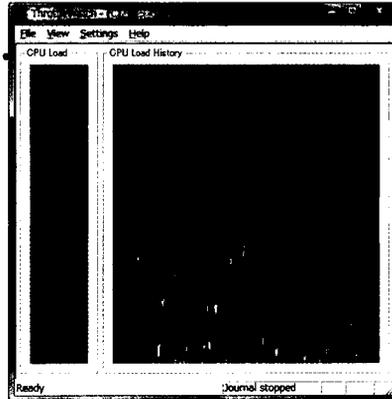
対応チップセット自体が比較的新しいため、再生そのものはそれほど大きな負担とは

検・証・環・境

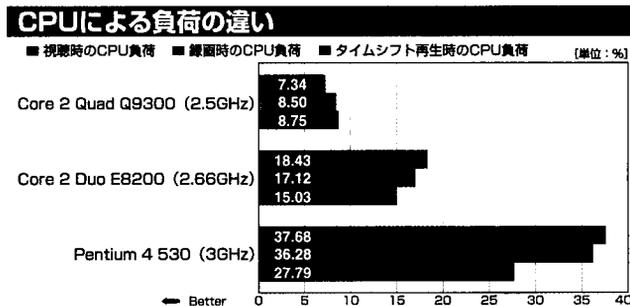
各グラフのCPU負荷は、「ThrottleWatch 2.01」を使用して計測。それぞれ0.5秒ごとにCPUの負荷率をチェックし、60秒分のデータの平均値を取り上げた。視聴する番組の内容によって負荷は変わってくると思われるが、統一は難しいため、いずれもスポーツなどの動きのあるシーンを使用している

スペック

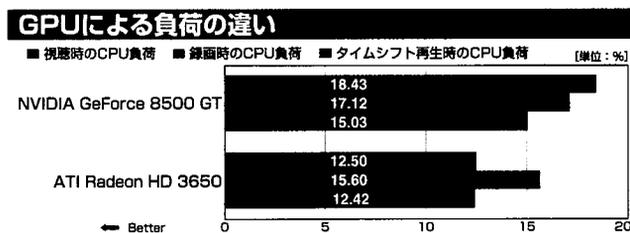
CPU: Intel Core 2 Duo E8200 (2.66GHz)、チップセット: Intel G33+ICH9、メモリ: ノーブランド PC2-6400 DDR2 SDRAM 1GB×2、ビデオカード: ZOTAC GeForce 8500GT-256MB GDDR2 (NVIDIA GeForce 8500GT)、HDD: Western Digital WD Caviar SE16 WD5000AAKS (500GB、Serial ATA)、OS: Windows Vista Home Premium SP1



ThrottleWatch 2.01
 作者: Panopsys
 種別: フリーソフト
 URL: <http://www.panopsys.com/>



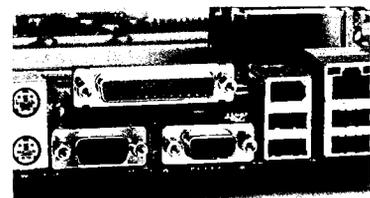
Core 2 Quad Q9300での負荷率の低さは目を見張るものがある。これだけ差があると「ながら作業」も快適だろう。地デジPCのためにパワーアップも考えざるを得ない？



ビデオカードの動画再生支援は確かに効果がある。デジタル放送なので画質向上にはあまり関係がないが、やはり快適地デジ環境に強力なビデオカードは必須だ

ならないだろう。これはアナログRGB端子で低解像度のSD出力を行っても同様である。ただ、やはりビデオメモリなどを考えても、高解像度環境で不利なのは間違いない。

なお、ビデオカードを装着できないスリムPCなどで地デジキャプチャカードを使いたいという人は、購入前にパッファローの「ストリームテスト for 地デジ」などの検証ツールを忘れずに試しておくべきである。



アナログRGB出力しかないマザーボードでも、パッファローの2製品のように、低解像度モードなら出力可能な製品もある